

廣瀬 裕一 (HIROSE Yuichi)

上級研究員 博士 (農学)

1979 兵庫県神戸市生まれ

2003 独立行政法人農業工学研究所

農地整備部 畑整備研究室 研究員

2011 農村工学研究所 資源循環工学研究領域

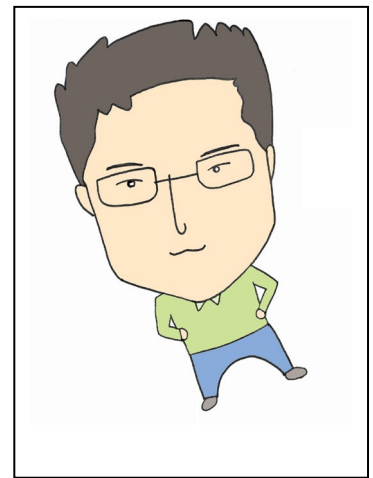
エネルギーシステム担当 研究員

2016 西日本農業研究センター 傾斜地園芸研究領域

カンキツ生産グループ 主任研究員

2021 農村工学研究部門 農地基盤情報研究領域

地域防災グループ 上級研究員 (現職)



研究者の横顔

2012年4月以来、2回目となる研究者の横顔の採用となります。顔写真には異例ですが、西日本農業研究センター善通寺研究拠点非常勤職員のYさんに頂いた似顔絵を使用しました。結構、お気に入りです。Yさん、ありがとうございます。

〈どのような研究をしているのか〉まずは、私がどのような研究を行っているかを紹介したいと思います。私は、農業農村工学の中でも特に農村計画学分野に関係する研究を行っています。具体的には、1) 人の環境に対する評価を見える化すること、2) 人が行動 (環境配慮行動・防災行動) を実行する意思決定の要因を明らかにすること、の2点が私の研究テーマです。

1) 人の環境に対する評価の見える化 : 農村環境をより『良い』状態で後生に継承したいという思いがあります。この『良い』状態とは、その農村環境に関係する住民等の人々が『良い』と思う状態と、農村の基盤施設を整備する行政や専門家が『良い』と考える状態があると考えます。この両者が重視する要因の相違点を明らかにすることが重要と考えています。

2) 人が行動 (環境配慮行動・防災行動) を実行する意思決定の要因を明らかにする : 良好な農村環境の維持、創出には、住民による農村環境の日ごろからの『手入れ』が重要です。最近では農村の混住化や農業者の減少等から、『手入れ』が継続できるか懸念されています。この『手入れ』への参加を促す方法を環境心理学の手法を用いて明らかにしようと研究を行っています。また、農村部を対象とした豪雨時等における住民の防災行動を促す手法も明らかにしたいと思っています。

〈用水路・ため池ウォーキングが趣味〉元々、『水』にまつわる場所への旅行が好きで、国内国外問わずいろいろ旅行をしてきました。コロナ禍の中では、近隣の岡山・香川を中心に用水路、ため池ウォーキングを行っています。歩いて用水路やため池等の水利システムを『線』や『面』で見ると、複雑な形状をした分水工や子ども達の遊び場となっている場所があったりと、いろいろ面白いものです。最近は兵庫や徳島、高知、愛媛あたりにも遠征しています。



讃岐富士 (飯野山) から見た大窪池  
土器川から取水した用水路が方々に分水してため池をいくつも経由して海に到る、丸亀平野の水利システムが面白い